

# 山形県三川町における存在動詞「居ル」のテンスについて

越田 みつ美

## 1. はじめに

存在動詞「イル」について、『方言文法全国地図』第197図（親しい友達の家を訪ねて、入り口で「〇〇さんいるか」と言うとき、どのように言いますか）をみると、山形など東北を中心に、現在のことを言う場合であっても「イタ」という形が現れている。三川町に近い鶴岡方言においても、やはり同じことが明らかとなっており、また過去のことを言う場合でも同じ語形が使用される場合があるといわれている。本稿は、現在の事態、過去の事態において三川町ではどのように言うのかを明らかにすることを目的としたものである。

## 2. 先行研究

渋谷（1994）によると鶴岡において、未来のことを言う場合は「イル」で表すが、現在のことを言う場合は「イル」「イダ」「イッダ」「イデル」が使用されており、過去のことを言う場合は「イダ」「イッダ」、文末詞「ケ」のついた「イダケ」「イッダケ」が使用されるという。「イダ」「イッダ」が使用された場合には、表面上現在を表すのか過去を表すのかが不明瞭になると述べられている。

また、標準語では有生物を見つけた場合に「イタ」というが、鶴岡ではそれだけではなくモノを見つけたときにも、そのモノが本体から分離可能なモノならば「イダ」を用いるとされる。

「イッダ」は「イテイタ」の方言形であり、「イデル」は大阪方言の「イテル」に相当する。違いに関しては「イル」のほうが、「イダ」「イッダ」に比べると恒常性が強いとされる。

渋谷（1998）では山形市方言において、過去を表す「イダ」「イッダ」と「イダケ」「イッダケ」の使用について、恒常性の含み強い場合は前者、回想性が強くなると後者が用いられやすくなるという。また、「イダケ」「イッダケ」にみられる文末詞「ケ」は、1) 動作動詞・変化動詞のル形やタ形に下接した場合、「記憶の検索による思い出し（回想を含む）」のほか、見てきたことの「報告」といったことを表す。2) 状態用言に下接した場合は、思い出しや報告だけではなく、過去を表すテンスマーカに変質している場合があるとし、「イル」に下接した場合には、1と2の中間的な性質を

もつ、と述べられている。また、文末詞「ケ」は鶴岡方言では形容詞にも下接するが、今回の調査では取り上げなかった。

なお、現在を表す「イダ」については金水（1997）において、室町時代に中央でみられた現在を表す「イタ」が現代に残ったものではないかといわれている。

以下、本稿中の鶴岡方言に関する言及は渋谷（1994）を参考にした。

### 3. 調査方法

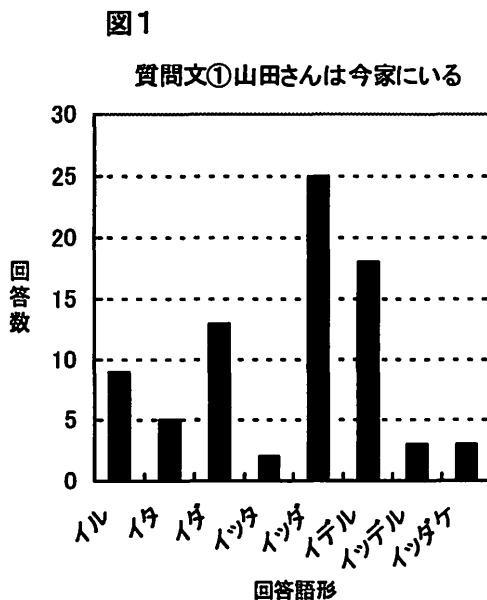
調査は、こちらの用意した質問文を三川のことばではどのようにいうのか、と面接で質問し、翻訳してもらった。予想した語形が回答されなかった場合には、誘導によって使用するかどうか尋ねた。質問文が話者にとって答えにくいと判断された場合には、なるべく話者が場面を想定しやすいように、親しい人物の名前をあげて質問しなおしたり、場面を変えて質問し、回答してもらった。

### 4. 調査結果

全調査結果は、表にまとめ、稿末に載せた。以下、質問別に分析をしていく。

#### 4.1 現在を言う場合について

質問文①「山田さんは今家にいる」の「いる」の部分をどうか、尋ねた結果を図1で示した。



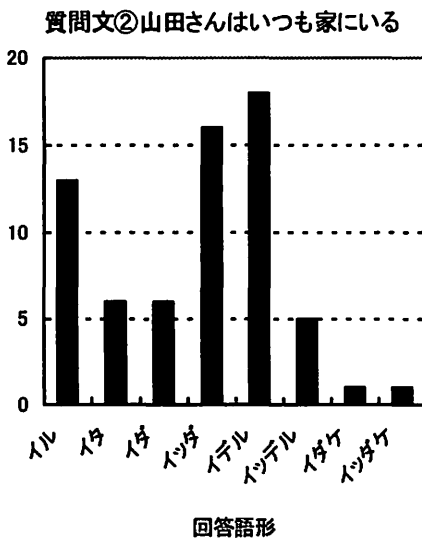
標準語と同じ「イル」の回答もあったが、鶴岡で過去の場合でも使われるとされる「イッダ」という語形が最も多く回答されている。また、「イッダ」に次いで、「イデル」という語形が多くみられる。しかし、「イデル」は誘導による回答が多い（回答数 18 のうち誘導による回答は 14 あった）。「イダ」についても誘導による回答が多かった（回答数 13 中誘導によるものは 7 あった）。

「イッダケ」については、3 人

が回答しているが、そのうちの1人から「今、家に行って会ってきたので、山田さんは今は家にいる」という時に使用する、というコメントが得られた。この場合の「ケ」は、報告や回想の意味を強く含むものではないかと考えられる。他の2人からは、他の人に伝える場合に「ケ」のついた語形を使用するというコメントが得られ、過去の意味を表わすというよりも「報告」の意味で使用されている。

次に、質問文②「山田さんは、いつも家にいる」というときの「いる」をどうか、という質問に対する答えをまとめたのが図2である。

図2



この質問では、鶴岡では恒常的な状態には「イダ」や「イッダ」が使いにくく、「イル」が使用されるという渋谷(1994)の記述に基づいて設定したものである。結果は、「イル」の回答数が13と①より多く回答され、その中で誘導によるものは1つだけであった。また「イッダ」は全体の回答数は「イル」より多いが、①に比べると回答数が減っており、回答数16中誘導による回答は7つと、半数近くが誘導によるものであった。これより、恒常性の強い場合、①に比べて「イル」が使われやすくなるという点では渋谷(1994)による鶴岡方言の記述と一致するが、「イッダ」が全く使えないわけではないと考える。

そして、この質問で一番多く回答されたのが「イデル」である。この「イデル」は、渋谷(1994)によると大阪方言のイテル(<イテイル)に相当すると言われているが、「イデル」に関しては、話者から、

- ・ 長い期間の時に使う(高年層)
- ・ 自宅で仕事をしている人や寝たきりの人に使う(中年層)
- ・ そこに留まっている感じ(若年層)

などというコメントがあり、恒常性が「イル」など回答された他の語形に比べて強い

ようである。

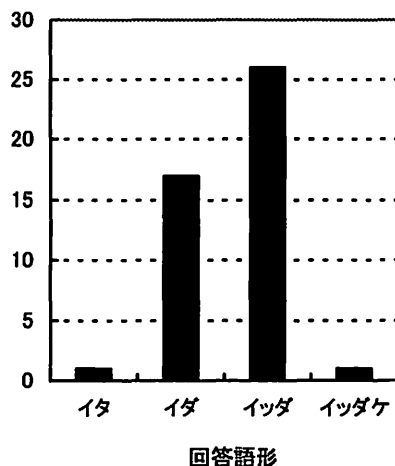
また、この文では①に比べて「イダ」の回答が少なく、渋谷(1994)の記述と一致した。また話者から、この文で「イダ」を使った場合、「山田さんはいつも家にいたが、今はもういない」という意味になるというコメントも得られた。

#### 4.2 人、モノを見つけた場合について

質問文③～⑤は、前述したように渋谷(1994)では鶴岡において有生物をみつけた場合だけではなく、分離可能なモノをみつけた場合でも「イタ」という場合があるという記述より、三川における実態を明らかにするために設定した。

質問文③「探していた山田さんをみつけて、「あっ、いた」というとき「いた」のところをどのようにいいますか」という質問の結果を図3にまとめた。

図3  
質問文③山田さんをみつけて「いた」



この問いに対しては、ほとんどが「イダ」や「イッダ」という回答であった。

また「イッダケ」という文末詞「ケ」のついた語形も回答されたが、これも質問文①のように報告の意味をもったものではないかと考える。ここでも質問文①②同様に「イダ」に比べて「イッダ」のほうが回答数が多い。

次に質問文④「探していた車の鍵をみつけて「あっ、あつた」というとき「あつた」のところをどのようにいいますか」、⑤「山田さんの電話番号を電話帳で探していて、それをみつけて「あつた」というとき、「あつた」のところをどのように

いいますか」という問いの結果をそれぞれ図4、図5にまとめた。

質問文④は分離可能なモノ、質問文⑤は分離できないモノである。鶴岡方言では④で「イダ」が使用され⑤では使用されないということであるが、これらの質問で回答された語形は④も⑤も「アツタ」、「アッダ」が多かった。⑤だけでなく④でも「イダ」の回答はあまりなく、④⑤ともに鶴岡ではみられない「イッダ」を回答する人がいた。

図4  
質問文④鍵をみつけて「あった」

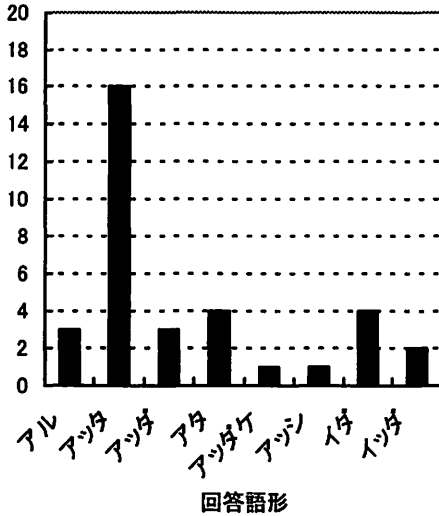
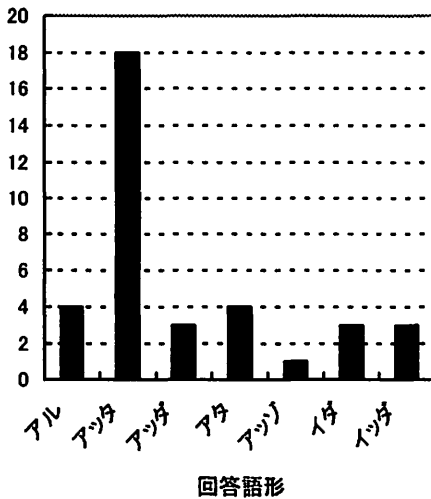


図5  
質問文⑤電話番号が「あった」



鶴岡では分離可能ではないものに関しては「イダ」は使いにくいとされていたが、三川では質問文④で「イダ」「イッダ」と答えた人が質問文⑤についても「イダ」「イッダ」を回答しており、また、質問文⑤にだけ「イッダ」と回答した話者もいた。少数の回答ではあったが、「イダ」の使えるモノの範囲は鶴岡に比べて広いのではないかと考えられる。

この質問文における「イダ」「イッダ」の使用に関して、話者から「自分の母親が使う」「年齢の上の人が使う」などのコメントがあったが、「イダ」「イッダ」と回答したのは、若年層2人、中年層3人、高年層は1人の6人であり、世代差はみられない。

また、話者から「横山の人が「イダ」や「イッダ」を使う」というコメントがあったが、今回の調査では「イダ」や「イッダ」と答えた6人は、横山に住む話者11人中4人、青山に住む話者1人中1人、押切新田に住む話者4人中1人であり、横山に限ったものでもなく、明確な地域差もみられなかった。

質問文③では「イル」という語形が回答されなかったが、質問文④⑤では「アル」と高年層で4人が回答しているがこれも鶴岡では不自然な形とされる。

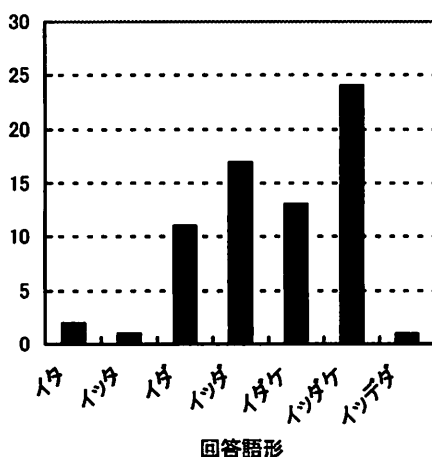
### 4.3 過去を言う場合について

この二つの質問では、さまざまな文末詞（ヨ、ナヤ、トヤ、ゼー、ヨー、ノー、ヤノヨー）がついた形の回答が多くあったが、「ケ」以外の文末詞は今回の分析にはとりあげず、分析にはこれらを除いた形で集計した。回答語形は「イタ」、「イッタ」、質問文①や②でも使われていた「イダ」、「イッダ」、そして「イダケ」、「イダツケ」、「イッダケ」、「イッダツケ」などの文末詞「ケ」のついた形、そして「イッデダ」である。前述のとおり、「イダ」と「イッダ」は語源が異なるので別に集計しているが、当方言はシラビーム方言であるため、今回回答された「イダツケ」は「イダケ」、「イッダツケ」は「イッダケ」に含めて集計した。

まずは質問文⑥「山田さんは昨日の夜友達の家に行ったというとき、「友達の家に行った」のところをどのようにいいますか」という質問に対する結果が図6である。

図6

質問文⑥山田さんは昨日友達の家  
に行った

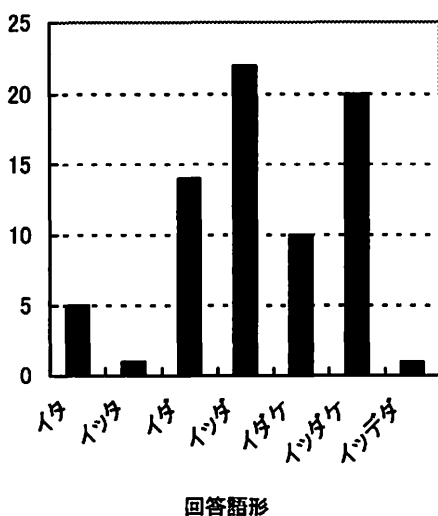


この質問では「イッダケ」の回答が多く、次いで「イッダ」「イダ」となっている。（ただし、「イッダケ」は誘導による回答が多く、回答数 14 のうち、誘導によるものは 8 あった。また、「イダケ」についても誘導による回答が多く、回答数 13 中誘導によるものは 10 あった。）「イッダケ」や「イダケ」などの「ケ」は、2 でも述べたように過去を表す性質もあるとされていたが、話者からは、人に伝えるときに「ケ」をつけるというコメントが多く聞かれ、質問文①や②などにも見られた「報告」の意味を強くもっていると思われる。また、「イッデダ」という語形が回答されているが、「イッデダ」については鶴岡方言ではみられない語形である。

『方言文法全国地図』196 図（「あの人はさっきまで確かにここにいた」というとき、「ここにいた」のところをどのようにいいますか）をみると秋田で似た語形「イデッタ」が見られるが、回答された話者との関係はわからなかった。

図7

質問文⑦あの人はさっきまでここに  
いた



最後に質問文⑦「あの人はさっきまで確かにここにいたと言うとき、「ここにいた」のところをどのようにいいますか」の調査結果を図7に示した。

ここでは今度は「イッダ」の回答が多く、次いで「イッダケ」「イダ」となっている。(⑥と同じで、やはり「イッダケ」は誘導による回答が多く回答数 20 中誘導によるものは8あった。「イダケ」も同様に回答数 10 中誘導によるものは6あった)。⑦は⑥と同じ、と答えた人もいたが、集計してみると「ケ」のついた語形が少なくなっている。

⑥も⑦も過去のことを言う場合であるが、⑦では「ケ」のついた語形の回答数

が少なくなっていることより、前述してきた通り、三川では文末詞「ケ」は過去を表すテンスマーカーというよりは、「報告」の意味で用いられていると考える。そう考えると、⑦の質問文中に「確かに」という副詞があり、内容が断定的で「報告」の意味を持ちにくいため、文末詞「ケ」のついた語形が少なくなったのではないかと考えられる。

## 5. まとめ

「現在いる状態」を表す場合、「イル」「イタ」「イダ」「イッダ」「イデル」が使われる。ただし、恒常的な状態であれば「イデル」がよく使われる。また、現在のことで人に伝える場合では「イダケ」など、文末詞「ケ」を下接することもある。また「いつもイダ」と言った場合、「いつもいたが、現在はもういない」といった意味になる場合がある。

人だけではなく、モノを見つけた場合に、鶴岡では分離可能なものに関しては「イダ」を使う場合があるというが、三川では使用する人はあまりなく、使用する人は分離可能なものではなくても「イダ」を使う。またこういった場合に鶴岡では「イッダ」は不自然だとされているが、三川では「イッダ」も使われている。

過去を表現するときには「イタ」「イッタ」「イダ」「イッダ」「イダケ」「イッダケ」が使われる。文末詞「ケ」が過去の意味を示しているとも思われるが、話者の使用意識は、人に伝えるときに「ケ」を使うというもので、「報告」の意味合いが強い。

また、どの質問に関しても明確な世代差はみられなかった。

今回の調査では現在の事態に対する質問の予想語形に「ケ」つきの語形をいれていなかったが、調査結果から「ケ」のつきの語形も誘導すればもう少し回答がみられた可能性がある。「ケ」に関してはさらなる調査が必要ではないかと思う。さらに過去の事態で回答された「イッダ」についても今後の調査が必要ではないかと思う。

### 参考文献

- 金水敏（1997）「現在の存在を表す「いた」について—国語史資料と方言から—」『日本語文法 体系と方法』ひつじ書房
- 国立国語研究所(1999)『方言文法全国地図』4 大蔵省印刷局
- 渋谷勝己（1994）「鶴岡方言のテンスとアスペクト」『国立国語研究所報告 109-1 鶴岡方言の記述的研究—第三次鶴岡調査 報告1—』秀英出版
- 渋谷勝己（1999）「文末詞「ケ」—三つの体系における対照研究—」『近代語研究』第十集 武蔵野書院

(こしだ みつみ・東京都立大学学生)





		質問文6					質問文7								
		山田さんは昨日の夜友達の家に行った					あの人はさっきまで誰かにここにいた								
		●	▼	◎	○	■	◆	△	●	▼	◎	○	■	◆	△
高 年 層	A1				○							○			
	A2		▼				◆					○			
	A3	●				■	◆		●		◎	○	■		
	A4					■	◆				◎	○	■	◆	
	A5				○						◎	○			
	A6						◆							◆	
	A7			◎	○	■	◆				◎	○	■	◆	
	A8	●		◎	○	■	◆				◎	○	■	◆	
	A9			◎	○	■	◆				◎	○	■	◆	
	A10			◎	○	◆		●				○		◆	
中 年 層	B1				○		◆					○		◆	
	B2			◎	○	■	◆		●		◎	○			
	B3					■	◆					○		◆	
	B4				○		◆				◎	○	■		
	B5						◆					○		◆	
	B6				○		◆		●			○			
	B7			◎	○	■	◆				◎	○		◆	
	B8			◎	○	■	◆				◎	○	■	◆	
	B9				○	■	◆					○			
	B10				○	■	◆		▼			○		◆	
若 年 層	C1			◎		■	◆				◎		■	◆	
	C2			◎		■	◆				◎		■	◆	
	C3			◎	○	■	◆		●		◎	○	■	◆	
	C4			◎	○	◆		△				○		◆	△
	C5					◆								◆	
	C6			◎	○	◆					◎	○		◆	